

最近気になる3冊

写真=伊豆倉守一

世の中、いろいろな学問があるもので、「渋滞学」という名の新しい学問があるらしい。著者の西成活裕・東京大学助教授は、「非線形現象」を専門とする研究者だが、交通工学、建築工学、社会心理学、医学、生物学など、さまざまな分野の研究成果を踏まえて、統計物理的なアプローチで渋滞を考える「渋滞学」の有用性を説く。

① イライラせず 渋滞の仕組みを考えてみる。

1 『渋滞学』 西成活裕著

新潮選書 1260円(税込)



づいて分析されていて、楽しく読める。また、各章の末尾に「章の要点」というコーナーが設けられ、箇条書きでわかりやすく要約されているのもうれしい。クルマの渋滞のほか、人混み、インターネット、エレベーター、体内の物質の移動などについても渋滞学の理論であざやかに説明される。行列のできる店、森林火災、お金など、渋滞=停滞が望ましいケースについての考察もおもしろい。

著者は混んだ店で順番を待つとき、新たにやってくる客と待ち人数から待ち時間を算出して楽しんでいっているという。渋滞の基本的なメカニズムを理解していれば、運転中に渋滞に巻き込まれたときのイライラも、少し軽減されるかもしれない。



2 『着るものがない!』 中野香織著

新潮社 1365円(税込)



3 『太平洋を渡った日本建築』 柳田由紀子著

NTT出版 1680円(税込)

「ハーバース・バザー」、「STORY」、「翼の王国」、朝日新聞に連載を持つ。売れっ子である。演出家の河毛俊作さん、ユナイテッドアローズの栗野宏文さんと共に、中野さんにはENGINEのファッション特集の座談会にご登場いただいたことがあるが、新鮮な話題でいつも口火を切ってくれる。ユーバースェクシャル、ソーシャライズ……中野アンテナが引く掛けたキーワードがどんどんと。それだけなら凡百の風俗研究家だが、中野さんは、歴史的な文脈のなかでこれらを分析し、エレガントに料理する。服飾史家の看板に偽りなし。

2月10日はニットの日、と書き出す「無視の作法」の項。ニット製品のひとつであるカット・アンド・ソーンからダイヤモンドのブリリアン・カットへ話は飛び、続いて社交の場面におけるカット、つまり話したくない人を避ける4種の作法が紹介され、そういう英語でニット(Knit)は眉間にしわを寄せること、と結ぶ。わずか10000字の小宇宙。贅肉をそいだ文章はクールだと改めておもう。